

新島基金による新島講座について

同志社創立百周年記念事業の一環として同記念事業寄付金の一部をもって新島基金が設立されました。

○新島基金の目的

新島基金は、同志社立学の精神にもとづき、人間教育を強化し、教育内容の高度化を図り、教育、研究の国際交流を推進し、もって一国の良き人材の育成に資することを目的とし、

基金の果実をもって (1) 新島講座の開設 (2) 新たな奨学制度の開設 (3) 教育・研究の国際交流の推進などを行うことになっております。

○新島講座

新島講座は、つねに時代を先導する同志社の教育と研究が、更に一層充実、発展し、またその成果が社会の進展に寄与するようにと願って新島基金の目的事業の一つとして設立されたものであり、内外の碩学を招聘し講演会などを開催する講座と、本学園教職員がその研究成果を発表する東京講座の二種類を毎年開催することになっています。

第八回新島講座

今年五月十日(金)・十五日(水)の二日にわたり、アメリカのプリンストン高等研究所教授モートン・ホワイト博士を迎えて公開講座が開催されました。

(グラビアページに講演模様を掲載)

公開講演会

○テーマ・「プラグマティズムと形式主義

への反抗——ウィリアム・ジェイムズ再考」

五月十日午後四時

於、同志社大学寧静館会議室(四階)

○テーマ・「理性に訴える権利の擁護——

——遺産の再義性」

五月十五日午後一時

於、同志社大学神学館チャペル

ホワイト博士は、現代アメリカの代表的哲学者である。ハーヴァード大学で長年にわたり教鞭をとり、現在はプリンストン高等研究所の教授をつとめている。アインシュタインの名前とむすびついて知られている高等研究所は、世界的知性による思索の

メッカと呼ぶにふさわしい存在であるが、それを象徴する言葉に「無用の学を用」がある。ホワイト博士は、プラグマティズムと政治の認識論について講演したが、この言葉の意味を体現するものであった。

新島講座・講演内容公刊について

○「THE LIBERAL ARTS TODAY」

アーモスト大学副学長

プロクター・ギフォード博士

(第一回講座) 頒価七〇〇円

○「STREAMS OF GRACE」

—STUDIES OF JONATHAN EDWARDS, SAMUEL TAYLOR COLERIDGE AND WILLIAM JAMES—

ハーバード大学教授 リチャード・ラインホルド・ニーバー博士

(第二回講座) 頒価一、三〇〇円

○「THE PROFESSIONALIZATION OF SCIENCE」

—FRANCE, 1770-1830, COMPARED TO THE UNITED STATES.

1910-1970

プリンストン大学教授 チャールズ・クールストン・ギリスビー博士

(第三回講座) 頒価七〇〇円

○「CHANGING BRITISH VIEWS OF JAPAN SINCE THE 19TH CENTURY」

ロンドン大学(SOAS)教授・日本研究所長 ウィリアム・ジュラルド・ビーズリー博士

(第四回新島講座) 頒価一、〇〇〇円

○「環境と法律」

—ハーヴァード・ロー・スクールで教えて—

元同志社大学法学部教授・現東京大学法学部教授 藤倉皓一郎

(第一回東京講座)

○「時間と人間の経済活動」

同志社大学経済学部教授 榊原胖夫

(第一回東京講座)

○「白砂を訪ねて」

—鳴き砂の秘密—

同志社大学工学部教授 三輪茂雄

(第二回東京講座)

○「縁起絵巻の世界」

—日本人の信仰に関連して—

同志社大学文学部教授 笠井昌昭

(第三回東京講座)

○「財閥の家憲と華族の家憲」

—とくに財産管理について—

同志社大学商学部教授 安岡重明

(第三回東京講座)

○「新島襄全集をめぐる」

—新島襄と仏教徒たち—

学校法人同志社社史資料室室長

河野仁昭

(第四回東京講座)

○「同志社ラクビーとともに」

同志社大学文学部教授 岡 仁詩

(第四回東京講座)

○「新島襄と科学」

同志社大学工学部教授 島尾永康

(第五回東京講座)

○「最近の医療問題」

同志社大学法学部教授 大谷 實

(第五回東京講座)

各冊子とも頒価五〇〇円

発行者・学校法人同志社

取扱い・同志社収益事業課

(電話〇七五—二五一—三〇三七)ハ